

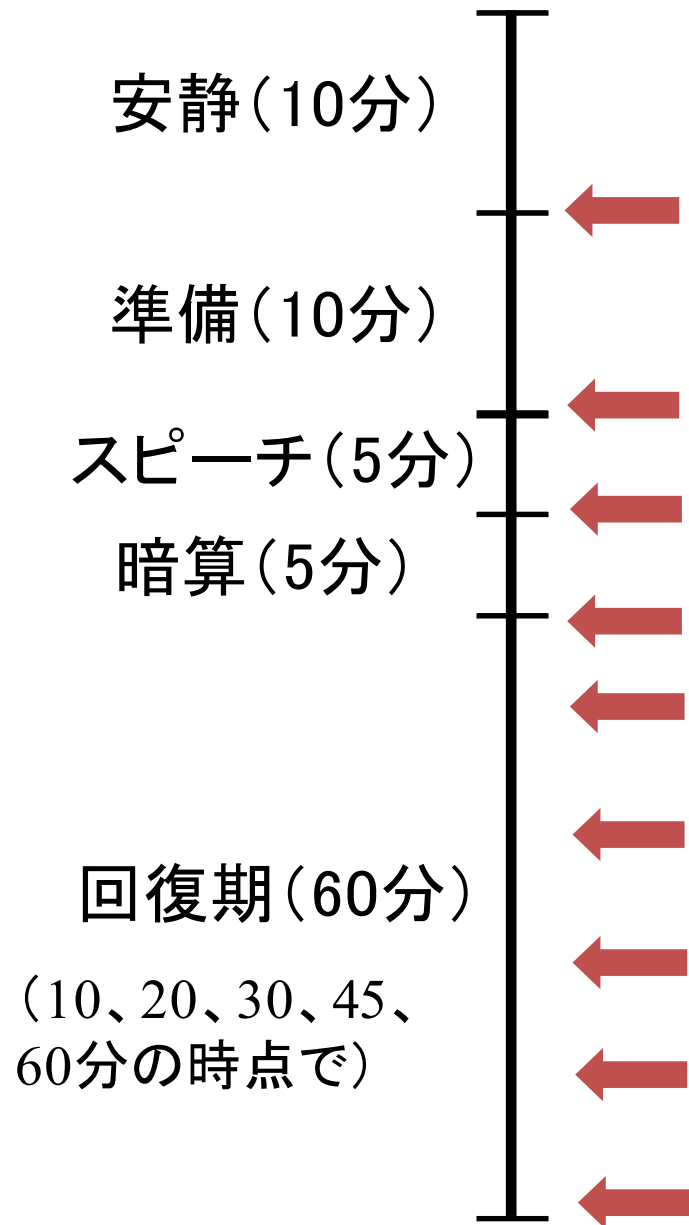
# Trier Social Stress Testによる ストレス負荷実験

データの紹介ならびにデータ利用について  
(概要)

# 対象者

- 健康な大学生・大学院生50名（男性39名、女性11名、18～28歳）
  - 2009年に関東圏の3大学で実施。
  - 服薬者や喫煙者は除外
  - 女性は性周期を統制（黄体期後期～卵胞期前期に実施）
- 制限事項
  - 実験1時間前からの飲食・激しい運動・はみがきをしない
  - 実験の前日・当日は規則正しい生活を心がける（朝9時までには起床）
  - 実験開始は14時以降

# 実験手続き



← 唾液採取・質問紙

評定者

参加者



Trier Social Stress Test (Kirschbaum, 1993)  
の protocol に準じたストレス負荷

# 心理指標

- 日常生活のストレスや気分をたずねる質問紙  
（自覚ストレスや不安、抑うつなど）
- 認知特性や性格傾向に関する質問紙
- 普段の身体症状や生活習慣（睡眠、運動など）に関する項目
  
- 実験中の気分やストレスのVASによる測定
- 実験中のスピーチやストレスの認知に関する質問紙

# 生理指標

- 唾液試料：Passive Drool法（ストロー）による採取。コルチゾール、デヒドロエピアンドロステロン（DHEA）、硫酸基結合型DHEA、C反応性蛋白、インターロイキン6を測定。
- 血圧：自動血圧計による複数回の測定。
- 心電図：ホルター心電計による測定。心拍、ローレンツプロット指標のデータが利用可能。

# これまでに発表されている論文

- Sugaya et al. (2012). Adrenal hormone response and psychophysiological correlates under psychosocial stress in individuals with irritable bowel syndrome. *International Journal of Psychophysiology* 84, 39-44.
- Kimura et al. (2013). The biological effects of acute psychosocial stress on delay discounting. *Psychoneuroendocrinology* 38, 2300-2308.
- Izawa et al. (2013). An increase in salivary interleukin-6 level following acute psychosocial stress and its biological correlates in healthy young adults. *Biological Psychology* 94, 249-254.

# データの使用条件など

- ✓ 電子メール等で研究計画を井澤まで申請  
(研究計画は研究メンバー以外には守秘します)
- ✓ 申請が認められたら誓約書を提出
- ✓ おおむね半年ごとの進捗状況の報告
- ✓ PNEI研究集会で2年以内に発表する
- ✓ 論文発表をしてもらえるとなお良い
- ✓ 学会・論文発表の際は事前にその内容を申請する。
- ✓ 発表時にはこちらの指定した共著者を含める
- ✓ 発表時に研究費への謝辞を含める
- データの利用やデータに関する質問・相談などは  
井澤修平 (izawa0810(a)gmail.com) まで  
※ (a)は@に直してください。